（別紙様式４）

令和7年10月31日

職業実践専門課程等の基本情報について（新カリキュラム）

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道スポーツ専門学校	平成4年12月4日	滝本　玲	〒　065－0011 （住所）北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 （電話）011－753－7073
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人吉田学園	昭和53年10月31日	吉田　祐樹	〒　060-0063 （住所）北海道札幌市中央区南3条西1丁目15番地 （電話）011-272-6070

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	専門課程	スポーツ健康学科	平成29(2017)年度	－	平成29(2017)年度

学科の目的	本学科は、各種スポーツに対応し、多様化したニーズに応えるトレーニング指導、コーチングができる。また北海道のプロスポーツや地域社会 と連携し、スポーツ等のイベントを通じて多種目・多世代の生涯スポーツの推進及び、地域の産業活性化に貢献できる人材育成を目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	■主な取得可能資格:トレーニング指導者、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、水泳コーチＩ

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間	1,020～1,530 単位時間	90 単位時間	330～540 単位時間	0 単位時間	390～750 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
105 人	67 人	0 人	0 %	5 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 34	人
■就職希望者数 (D)	: 28	人
■就職者数 (E)	: 28	人
■地元就職者数 (F)	23	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	82	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	82	%
■進学者数	1	人

■その他

（令和　　６年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

スポーツトレーナー、スポーツインストラクター、医療福祉系施設、運動指導員等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価:　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：－　　受審年月：－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://www.yoshida-sports.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,910 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	660 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,470 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	150 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	30 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	－ 単位
うち必修単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	7 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		10 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	7 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナー学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等）等に活かすことを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項
・学則の教育課程に関する事項
・教育課程に基づくシラバスに関する事項
・実習・演習等に関する事項
・その他、職業教育に関する事項

②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、学科会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更については、校長の決裁を経て行われる。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局 次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	①
滝本 玲	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校校長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	―
大森　達也	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校副校長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―
藤田　真	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 学科長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―
今北 雄太	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 副学科長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	―
喜多　奎介	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 教員	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （8月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和6年　8月30日　15：00～16：30
第2回　令和7年　2月14日　16：30～17：30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各種団体の養成認定校として認定を受ける為に必要な学びを継続しつつも、より実践的なスキルが身につく学びが最大化されるよう、実技・実習に重きを置いた教育課程の整備を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
事業委託契約書による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指す為に連携を行うもの

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
スポーツ業界の第一線で活躍するインストラクター、管理栄養士、トレーナー（リラクゼーションセラピスト、鍼灸師、柔道整復師等）から業界動向も踏まえ、それに必要な最新の知識、技術を学び、時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスポーツ指導者を育てる。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
スポーツ栄養学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	株式会社ウェルネスプランニング
スポーツマッサージ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	株式会社グローバルアンビシャス
各種トレーニング法の実際	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	株式会社ベストパフォーマンス
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	株式会社北海道日本ハムファイターズ、株式会社コンサドーレ、北海道イエロースターズ、レバンガ北海道
ストレッチ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	株式会社EverCompany

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。
・専門学校教育研修会
・階層別研修
・外部研修等（学会等を含む）

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会　　連携企業等：公認AT北海道協議会

期間：　令和6年10月 20日　　対象：公認アスレテックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者

内容　知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める

研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和7年3月16日	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	
期間:	令和6年8月 9日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ 「今、改めて「教師力」を考える ～教員とはどうあるべきか～」 分科会 「ICTやアクティブ・ラーニングの手法を活用した魅力ある授業づくり、信頼関係を深め、問題の解決や未然防止に役立つ学生指導・支援の方策、職業観や勤労観、進路意識を高める指導方法や教育課程のあり方、発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応のあり方」		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会	連携企業等:	公認AT北海道協議会
期間:	令和7年11月23日	対象:	公認アスレテックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		
研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和8年3月	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	AVINTON ジャパン株式会社 他
期間:	令和7年8月 8日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ 「学生の未来をひらく専門学校教育～学生理解と効率的な業務の推進～」 分科会「生成 AI の理解と活用（初級編）」、「高等学校における進路指導の理解と専門学校入学後の効果的な学生支援」、「発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応」		
研修名:	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会
期間:	令和7年8月 1日	対象:	公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会会員校の教職員
内容	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開～社会人基礎力の育成を目指して～		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。
・教育理念・目標
・学校運営
・教育活動
・学修成果・教育成果
・学生支援
・教育環境
・学生の受け入れ募集
・教育の内部質保証システム
・財務
・社会貢献・地域貢献
・国際交流

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像（教育理念（建学の精神）・目的・目標、育成人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか） ②教育の特色（社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか）
（2）学校運営	①運営方針（運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか） ②事業計画（事業計画を作成し、執行しているか） ③運営組織（運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか） ④教職員の評価・育成（教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか） ⑤人事・給与制度（人事・給与に関する制度を確立しているか） ⑥情報システム（情報システム化等による業務の効率化が図られているか）
（3）教育活動	①目標の設定（教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか） ②教育方法・評価等（各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか） ③成績評価・単位認定等（成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか） ④資格・免許取得の指導体制（資格・免許取得のための指導体制があるか） ⑤キャリア教育等（基礎的・汎用的能力（① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか）
（4）学修成果	①学修成果（各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか） ②就職率（就職率の向上が図られているか） ③資格・免許の取得率（資格・免許取得率の向上が図られているか） ④社会的評価（卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか）
（5）学生支援	①修学支援（学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか） ②就職等進路（就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか） ③学生相談（学生相談に関する体制は整備されているか） ④学生生活（学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか） ⑤中途退学への対応（退学率の低減が図られているか） ⑥保証人（保護者）との連携（保証人との連携体制を構築しているか） ⑦卒業生・社会人支援（卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか）
（6）教育環境	①施設・設備等（施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか） ②学外実習、インターンシップ等（校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか） ③防防災・安全管理（防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか）
（7）学生の受入れ募集	①学学生募集活動（学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか） ②入学選考（入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか） ③学納金（学納金は妥当なものとなっているか）
（8）財務	①財務基盤（学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか） ②予算・収支計画（予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか） ③監査（財務について会計監査が適正におこなわれているか） ④財務情報の公開（私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか）

(9)法令等の遵守	①法関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか) ②個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか) ③学校評価(自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか ④改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか) ⑤教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)
(10)社会貢献・地域貢献	①社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか) ②ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)
(11)国際交流	①留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価より、「資格取得率」「地域貢献」「教員・学生のモチベーション維持・向上」「学生募集」等に関する意見が寄せられた。

この意見を踏まえ、その改善を図るべく、取り組みの重要度・優先度を設定した後プロジェクトチーム化を図り、業界や地域のニーズ分析や、他専門学校動向調査(特色、教育課程の実態、教育実績、部活動実績、その他)等に取り組むこととした。社会に求められる即戦力人材の育成がより加速するよう、より良い学校運営の在り方を模索していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

#REF!

名　前	所　　属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
金子 知	社会医療法人朋仁会　整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長　リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会 事務局次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))

URL:　https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/

公表時期:　令和7年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
(2)各学科等の教育	・定員数、在学生数 ・カリキュラム(授業概要、授業時数等) ・進級・卒業要件等(成績評価基準、進級・卒業の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業者数、卒業後の進路(主な就職先、就職者数、就職率等)
(3)教職員	・教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況

(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・部活動の活動状況および実績 ・施設・設備等の教育環境
(6)学生の生活支援	・学生・生活指導への取り組み状況 ・カウンセリングの体制整備等に関する状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(学費・納入時期等) ・活用できる修学支援の内容(奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等)
(8)学校の財務	・事業報告書 ・収支計算書 ・貸借対照表 ・監査報告書
(9)学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/

公表時期: 令和7年10月31日

授業科目等の概要（新カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　パーソナルトレーナーコース）																
	分類								授業方法			場所		教員		
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			パーソナルトレーナー概論	パーソナルトレーナーの職業を理解し、職業特性を学ぶ	1・前	30	2	○			○		○	○	○
2	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来る よう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあ るべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよ う努める。	1・通	60	4	○			○			○	
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なス ポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障が いの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差による スポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知 識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用 いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	
7	○			検定対策Ⅰ	トレーニング指導者として相応しい知識や技術を習得しをトレーニング指導者資格合格を目指す。	1・通	60	4	○			○		○		
8	○			検定対策Ⅱ	トレーニング指導者資格の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・後	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を 持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		

11	○			JATI理論対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
12	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
13	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と 運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、 実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法 やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特 徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授 業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調 理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
15	○			検定対策Ⅲ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○			○	
16	○			検定対策Ⅳ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
17			○	ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動 能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
18			○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業 とする。	2・集	30	2	○			○		○		
19			○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
20			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
21	○			ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
22	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
23	○			健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
24			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
25	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		

26	○			JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	1	○			○		○	○	
27	○			スポーツ マッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学 び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	2・前	30	1			○	○			○	○
28	○			効果測定とフィードバック	トレーニング効果を評価するための測定方法を学び、得られたデータをもとに的確なフィードバックを行う力を養う。指導計画の改善につなげる実践力を培う。	2・通	60	2			○	○			○	
29	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
30	○			ボディメイク実践	自らボディメイク（トレーニング、減量等）を実践し、美しい身体作りをする。見た目上美しい身体作りを実践・指導できる。	2・通	60	2			○	○			○	
31	○			フィジカルトレーニング	自身のフィジカル能力向上、スポーツ動作に活かせるト レーニングの実践。スポーツにおける基本的動作に必要なフィジカル能力向上のトレーニングが実践出来るようになる。	2・通	60	2			○	○			○	○
32	○			フィジカルコンディショニング	身体的不調からの回復を目的としたコンディショニング方法について学び、その実践ができるよう理解を深める。	2・通	60	2			○	○			○	○
33	○			テーピング テクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
34			○	水泳コーチⅠ 対策	検定試験（公認水泳コーチ1）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
35			○	スノーボード・ スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○		
36	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とす る。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
37	○			コミュニ ケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
38	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○		

39	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	△	○	△	○		○		○
40	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・前	30	2	○			○		○		
41	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
42	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△		○	○		
43	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	4	○			○			○	
44			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
45	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
46	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレー ナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講 義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニ ケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
47	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
48		○		パーソナルトレーナー実習Ⅰ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○		○	○	○
49		○		パーソナルトレーナー実習Ⅱ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	2・通	60	2	△		○	○		○	○	○
50			○	ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
51			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
52			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
53			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		

54			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
55			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
56			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
57			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
合計					58 科目			2550 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（新カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツインストラクターコース）															
	分類								授業方法			場所		教員		
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来る よう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあ るべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよ う努める。	1・通	60	4	○			○			○	
2	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
3	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なス ポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。 その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障が いの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によ る スポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知 識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用 いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	
6	○			検定対策Ⅰ	健康運動実践指導者について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○	△		○		○		
7	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・後	30	2	○	△		○		○		
8	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を 持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			JATI理論対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	

11	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
12	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と 運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、 実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
13	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動 能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法 やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特 徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授 業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調 理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
15	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○		○		
16	○			検定対策Ⅳ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
17	○			ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
18			○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
19			○	JATIトレーニング指導者対策	検定試験（トレーニング指導者）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	
20			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
21	○			ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
22	○			スタジオプログラム	実践的な制作スキルとチームでの協働能力を育成しながら、スタジオプログラムの全体的なプロセスを体験します。創造力を発揮し、プロジェクトを成功に導くための計画力、問題解決力、プレゼンテーションスキルを身につけることを目的としています。また、講師によるレッスン体験を通して、プロフェッショナルな制作プロセスやアプローチの理解を深めます。	1・前	60	2			○	○			○	
23	○			健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	

24			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマ ナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
25	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
26	○			JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	1			○	○		○	○	
27	○			レクリエーションスポーツ	多様なレクリエーションスポーツを体験し、楽しさや交流を生み出す指導方法を学ぶ。参加者の年齢や目的に応じたプログラム企画力と実践力を養う。	2・前	30	1			○	○		○		
28	○			プログラム研究と開発	一般向けスタジオプログラムの企画から実践までを行う。	2・通	60	2	△		○	○			○	
29	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
30			○	水泳コーチⅠ対策	公認水泳コーチ1の合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
31			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
32	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とす る。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
33	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
34	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○		
35	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	△	○	△	○		○		○
36	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・後	30	2	○			○		○		
37	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		

38	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△		○	○		
39	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	4	○			○			○	
40			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
41	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
42	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレー ナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講 義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニ ケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
43	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
44	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
45			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
46			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
47			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
48			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
49			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
50			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
51			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
52			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
53		○		フィットネストレーナー実習Ⅰ	フィットネス業界の歩みを知り、実例をみながらスポーツクラブ運営の基礎を学ぶ。経営戦略への興味関心を高め、基礎知識を習得する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○

54		○		ベーシック トレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1 ・ 通	60	2			○	○		○		
55		○		各種 トレーニング法の 実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2 ・ 通	60	2			○	○			○	○
56		○		フィットネス トレーナー実習Ⅱ	フィットネス業界の歩みを知り、実例をみながらスポーツクラブ運営の基礎を学ぶ。経営戦略への興味関心を高め、基礎知識を習得する。	2 ・ 集	60	2			○	○	○	○	○	○
57		○		こどもスポーツ 実習Ⅰ	子どもの身体的特徴や発育発達段階を理解する。また、レッスンにおける指導を通じて運動指導の実践力を身につける。	1 ・ 集	60	2			○	○		○		
58		○		コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングについて7つの能力の観点から学び、指導現場において役立つ知識とスキルを学習することを目的とする。	1 ・ 前	30	1			○	○		○		
59		○		運動遊びと安全 管理	幼児から小学生を対象とした「運動遊び」の基礎的知識と実践力を身につける。 安全管理の基本原則を理解し、リスクを予測・対応できる力を養う。 指導者としての観察力・コミュニケーション力を実技を通して高める。	1 ・ 後	30	1	○		○	○		○		
60		○		コーチング演習	スポーツ現場を想定した演習を通じて、指導計画の立案・実施・振り返りを実践的に学ぶ。競技特性や選手の個性に応じた柔軟なコーチング力を養う。	2 ・ 集	60	2		○	○	○		○		
61		○		こどもスポーツ 実習Ⅱ	子どもの発育発達及び習熟段階を考慮した指導計画を立案し、効果的な運動指導を実践する。	2 ・ 集	60	2			○	○		○		○
62		○		ダンス パフォーマンスⅠ	ダンスインストラクターとしての知識とダンススキルを身につける。	1 ・ 通	60	2			○	○			○	○
63		○		ダンス パフォーマンスⅡ	ダンスインストラクターとしての知識と技術を向上し、60分のダンスレッスン指導を目指す。	1 ・ 通	60	2			○	○			○	○
64		○		ダンス パフォーマンスⅢ	ダンスインストラクターとしての知識とダンススキルを身につけ、ダンスショーのプログラム（選曲・振付・発表）・ダンスエクササイズと基礎指導ができる。	2 ・ 通	60	2			○	○			○	○
65		○		ダンス パフォーマンスⅣ	ダンスインストラクターとしての知識と技術を向上し、ダンスショーのプログラム・ダンスイベント運営スタッフ・ダンスレッスン指導を可能にする。	2 ・ 通	60	2			○	○			○	○
合計					65	科目				2910	単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2　期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17　週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（新カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツコーチングコース）																
	分類								授業方法			場所		教員			
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			コーチングの仕方	コーチングの理論と方法を学び、実際の指導現場での状況変化に対応できるようになる。	1・後	30	2	○		○	○		○		
2	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来る よう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあ るべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよ う努める。	1・通	60	4	○			○			○	
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なス ポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。 その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障が いの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差による スポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知 識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用 いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	
7	○			検定対策Ⅰ	健康運動実践指導者について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○	△		○		○		
8	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・後	30	2	○	△		○		○		
9		○		コーチ・審判ライセンス特別講習	各種目のルール、特徴・特性を理解し、実践へと繋げることを目的とする。各種講習会に参加しライセンスの取得も目指す。	1・2・集	30	2	○	△		○	○	○		○
10	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を 持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラ ブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		

12	○			JATI理論対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
13	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			健康 プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と 運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、 実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○			ジュニアスポーツ 指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動 能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法 やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特 徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授 業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調 理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
17	○			データ分析	競技力向上を目的に、試合やトレーニングのデータ収集・解析方法を学ぶ。得られた情報を戦術立案や指導改善に活用する力を養う。	2・通	60	4	○		△	○	○		○	
18	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○		○		
19	○			検定対策Ⅳ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
20	○			ジュニアスポーツ 指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
21			○	スポーツ プログラマー 対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
22			○	JATI トレーニング 指導者対策	検定試験（トレーニング指導者）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	
23			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
24	○			ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
25	○			コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングについて7つの能力の観点から学び、指導現場において役立つ知識とスキルを学習することを目的とする。	1・前	30	1			○	○		○		
26	○			ベーシック トレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
27	○			健康づくり運動の 実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	

28			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマ ナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
29	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
30	○			JATI 実践対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	1	○			○		○	○	
31	○			コーチング実践	実際の指導場面を想定または現場での活動を通じて、選手への声かけや状況判断を実践的に学ぶ。経験をもとに指導力と応用力を高める。	2・後	30	1			○	○	○	○		
32	○			レクリエーションスポーツ	多様なレクリエーションスポーツを体験し、楽しさや交流を生み出す指導方法を学ぶ。参加者の年齢や目的に応じたプログラム企画力と実践力を養う。	2・前	30	1			○	○		○		
33	○			コーチング演習	スポーツ現場を想定した演習を通じて、指導計画の立案・実施・振り返りを実践的に学ぶ。競技特性や選手の個性に応じた柔軟なコーチング力を養う。	2・集	60	2		○	○	○		○		
34	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
35			○	水泳コーチⅠ対策	公認水泳コーチ1の合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1	○			○		○		
36			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
37	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とす る。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
38	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
39	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○		
40	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	△	○	△	○		○		○
41	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・後	30	2	○			○		○		

42	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
48	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
47	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレー ナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講 義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニ ケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
48	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
49	○			コーチング実習Ⅰ	スポーツ指導者としての心得や、各競技の概念、特性について学び、活かすことを目的とする。	1・集	60	2	△		○	○	○	○	○	
50	○			コーチング実習Ⅱ	スポーツ指導者としてのこれまでの学びを活かし、各競技現場における実践を通して指導者としてのスキルを磨くことを目的とする。	2・集	60	2	△		○	○	○	○	○	
51	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
52			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
53			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
54			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
55			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
56			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
57			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		

59			○	二年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
合計					59　科目				2490	単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2　期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17　週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（新カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツビジネスコース）																
	分類								授業方法			場所		教員			
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			スポーツ ビジネス論	現代社会におけるスポーツの発展とビジネスとしての側面を学び、スポーツに求められる社会的な役割・機能を考える。スポーツビジネスの現場で必要になる知識と能力を高め、述べることが出来るようになる。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○			スポーツマーケティング論	スポーツマーケティングを網羅的に学ぶことで、スポーツ市場の消費者の特性やマーケティングの基本的な考え方を理解する。	1・前	30	2	○			○			○	
3	○			スポーツトレンドリサーチⅠ	現在のスポーツ業界におけるトレンドに触れ、深堀していくことで業界理解を深める。また今後のスポーツビジネスについて自らの考えを持てるようにする。	1・後	30	2	○			○		○		
4	○			イベント企画と立案	イベント企画に対しての基礎知識を学び、発案・考案しイベント企画を構築する。	1・後	30	2			○	○			○	○
5	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用 いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	
6	○			スポーツと 指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、 実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来る よう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあ るべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよ う努める。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			身体の解剖と 機能	筋・骨格系を中心に学習する。 クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なス ポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。 その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障が いの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差による スポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
9	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知 識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
10	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を 持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラ ブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		

11	○			スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
12	○			スポーツツーリズム研究	スポーツツーリズムについて、その意義、現状、事例を学び、ツーリズムの重要なコンテンツとしてのスポーツの理解を深める。	2・前	30	2	○			○		○	○	○
13	○			スポーツトレンドリサーチⅡ	現在のスポーツ業界におけるトレンドに触れ、深堀していくことで業界理解を深める。また、今後のスポーツビジネスについて自らの考えを持てるようにする。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			スポーツ産業学	スポーツの発展は、社会的・経済的発展と相互関係にあることを理解したうえで、広い知見を深める。21世紀におけるスポーツの創造に向けて自ら考察できるようになる。	2・後	30	2	○			○			○	
15	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と 運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、 実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○			検定対策Ⅰ	健康運動実践指導者について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○	△		○		○		
18	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・後	30	2	○	△		○		○		
19	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○		○		
20	○			検定対策Ⅳ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
21			○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
22			○	ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動 能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
23			○	JATI理論対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
24			○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
25			○	JATIトレーニング指導者対策	検定試験（トレーニング指導者）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	
26	○			イベント集客	付帯設備スポーツプラザiBのイベント集客を行いながら、集客手法や発信力、マーケティングスキルについて学ぶ。	1・前	30	1			○	○		○		

27	○			健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
28			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマ ナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
29	○			プレゼンテーション	スポーツビジネスの現場を想定し、企画や提案を効果的に伝えるプレゼンテーション技法を実践的に学ぶ。表現力・説得力・構成力を養う。	2・前	30	1	△		○	○			○	
30	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
31	○			ブランディング	広報における企業ブランディングの知識・理解を深める。企業分析を行いながら、ブランディングを学び、今後のスポーツビジネスの現場においての創造力や発信力の広報スキルを身に付ける。	2・通	60	2			○	○		○		
32			○	水泳コーチⅠ対策	公認水泳コーチ1合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1	○			○		○		
33			○	JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会（JATI）の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	1	○			○		○	○	
34			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
35	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とす る。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
36	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
37	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○		
38	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	△	○	△	○		○		○
39	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・後	30	2	○			○		○		
40	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	1・通	60	4	○			○			○	

41	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
42	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△		○	○		
43	○			外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
44	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
45	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレー ナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講 義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニ ケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
46	○			インターンシップⅠ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	60	4	△		○	○	○	○	○	○
47	○			イベント企画・運営実習Ⅰ	スポーツ大会(屋内・屋外)、スポーツフェスティバルの企画・運営する	1・集	60	4	△		○	○	○	○	○	
48	○			インターンシップⅡ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	2・集	60	4	△		○	○	○	○	○	○
49	○			イベント企画・運営実習Ⅱ	スポーツ大会(屋内・屋外)、スポーツフェスティバルの企画・運営する	2・集	60	4	△		○	○	○	○	○	
50	○			地域コラボ実習	地域のスポーツ団体や施設と連携し、イベント企画・運営やプログラム実施を通じて、実務力と地域貢献意識を養う実践型授業。	2・集	60	4			○	○	○	○	○	○
51	○			制作と販売	スポーツ関連商品の企画・制作・販売を通じて、商品開発の流れやマーケティングの基本を学ぶ。実践を通じて企画力と販売力を養う。	2・集	60	4			○	○	○	○	○	○
52			○	ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
53			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
54			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
55			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		

56			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
57			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
58			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
59			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
60			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点におい て、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
合計					60 科目				2550 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

令和6年10月31日

職業実践専門課程等の基本情報について（旧カリキュラム）

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道スポーツ専門学校	平成4年12月4日	滝本 玲	〒　065－0011 （住所）北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 （電話）011－753－7073
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人吉田学園	昭和53年10月31日	吉田　祐樹	〒　060-0063 （住所）北海道札幌市中央区南3条西1丁目15番地 （電話）011-272-6070

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	専門課程	スポーツ健康学科	平成29(2017)年度	－	平成29(2017)年度

学科の目的	本学科は、各種スポーツに対応し、多様化したニーズに応えるトレーニング指導、コーチングができる。また北海道のプロスポーツや地域社会 と連携し、スポーツ等のイベントを通じて多種目・多世代の生涯スポーツの推進及び、地域の産業活性化に貢献できる人材育成を目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率 等）	■主な取得可能資格：トレーニング指導者、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、水泳コーチⅠ、エアロビックコーチⅠ

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間	1,800 単位時間	0 単位時間	570 単位時間	0 単位時間	660 単位時間
		－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
120 人	65 人	0 人	0 %	3 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	: 34	人
■就職希望者数（D）	: 28	人
■就職者数（E）	: 28	人
■地元就職者数（F）	23	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	82	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	82	%
■進学者数	1	人

■その他

（令和　　6 年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

スポーツトレーナー、スポーツインストラクター、医療福祉系施設、運動指導員等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：－　　受審年月：－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://www.yoshida-sports.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,730 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	540 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	390 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	60 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	－ 単位
うち必修単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	7 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		10 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	8 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナー学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等）等に活かすことを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。
・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項
・学則の教育課程に関する事項
・教育課程に基づくシラバスに関する事項
・実習・演習等に関する事項
・その他、職業教育に関する事項
②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、学科会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更については、校長の決裁を経て行われる。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	③
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局 次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	①
滝本 玲	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校校長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	―
大森　達也	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校副校長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―
藤田　真	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 学科長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―
今北 雄太	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 副学科長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日（2年）	―
喜多　奎介	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 教員	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日（2年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、2月）
（開催日時（実績））
第1回　令和6年　8月30日　15：00～16：30
第2回　令和7年　2月14日　16：30～17：30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
各種団体の養成認定校として認定を受ける為に必要な学びを継続しつつも、より実践的なスキルが身につく学びが最大化されるよう、実技・実習に重きを置いた教育課程の整備を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
事業委託契約書による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指す為に連携を行うもの

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
スポーツ業界の第一線で活躍するインストラクター、管理栄養士、トレーナー（アスレティックトレーナー、リラクゼーションセラピスト、鍼灸師、柔道整復師等）から業界動向も踏まえ、それに必要な最新の知識、技術を学び、時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスポーツ指導者を育てる。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
スポーツ栄養学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	株式会社ウェルネスプランニング
リコンディショニングⅢ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	今日における機能的・体力的問題に対して、課題を解消するためのリコンディショニングプログラム、計画を考案し実践する。また、障害予防の観点からのアプローチも併せて理解する。	鍼灸サロン　ビーグラン
スポーツマッサージ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	株式会社グローバルアンビシャス
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	株式会社北海道日本ハムファイターズ、株式会社コンサドーレ、北海道イエロースターズ、レバンガ北海道
トレーナー 総合実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	株式会社トレリハ、Veitu石狩、学校法人酪農学園酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、鍼灸サロンビーグラン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。
・専門学校教育研修会
・階層別研修
・外部研修等（学会等を含む）

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会	連携企業等：	公認AT北海道協議会
期間：	令和6年10月 20日	対象：	公認アスレテックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		

研修名：	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等：	健康・体力づくり事業財団
期間：	令和7年3月16日	対象：	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等：	
期間：	令和6年8月 9日	対象：	正職員・嘱託職員
内容	テーマ 「今、改めて「教師力」を考える ～教員とはどうあるべきか～」 分科会 「ICTやアクティブ・ラーニングの手法を活用した魅力ある授業づくり、信頼関係を深め、問題の解決や未然防止に役立つ学生指導・支援の方策、職業観や勤労観、進路意識を高める指導方法や教育課程のあり方、発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応のあり方」		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会	連携企業等：	公認AT北海道協議会
期間：	令和7年11月23日	対象：	公認アスレテックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		

研修名：	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等：	健康・体力づくり事業財団
期間：	令和8年3月	対象：	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等：	AVINTON ジャパン株式会社 他
期間：	令和7年8月 8日	対象：	正職員・嘱託職員
内容	テーマ 「学生の未来をひらく専門学校教育～学生理解と効率的な業務の推進～」 分科会「生成 AI の理解と活用（初級編）」、「高等学校における進路指導の理解と専門学校入学後の効果的な学生支援」、「発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応」		

研修名：	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等：	北海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会
期間：	令和7年8月 1日	対象：	公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会会員校の教職員
内容	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開～社会人基礎力の育成を目指して～		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。

・教育理念・目標
・学校運営
・教育活動
・学修成果・教育成果
・学生支援
・教育環境
・学生の受け入れ募集
・教育の内部質保証システム
・財務
・社会貢献・地域貢献
・国際交流

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像（教育理念（建学の精神）・目的・目標、育成人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか） ②教育の特色（社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか）
（2）学校運営	①運営方針（運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか） ②事業計画（事業計画を作成し、執行しているか） ③運営組織（運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか） ④教職員の評価・育成（教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか） ⑤人事・給与制度（人事・給与に関する制度を確立しているか） ⑥情報システム（情報システム化等による業務の効率化が図られているか）
（3）教育活動	①目標の設定（教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか） ②教育方法・評価等（各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか） ③成績評価・単位認定等（成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか） ④資格・免許取得の指導体制（資格・免許取得のための指導体制があるか） ⑤キャリア教育等（基礎的・汎用的能力（① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか）
（4）学修成果	①学修成果（各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか） ②就職率（就職率の向上が図られているか） ③資格・免許の取得率（資格・免許取得率の向上が図られているか） ④社会的評価（卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか）
（5）学生支援	①修学支援（学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか） ②就職等進路（就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか） ③学生相談（学生相談に関する体制は整備されているか） ④学生生活（学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか） ⑤中途退学への対応（退学率の低減が図られているか） ⑥保証人（保護者）との連携（保証人との連携体制を構築しているか） ⑦卒業生・社会人支援（卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか）

(6)教育環境	①施設・設備等(施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか) ②学外実習、インターンシップ等(校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか) ③防防災・安全管理(防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか)
(7)学生の受入れ募集	①学学生募集活動(学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか) ②入学選考(入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか) ③学納金(学納金は妥当なものとなっているか)
(8)財務	①財務基盤(学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか) ②予算・収支計画(予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか) ③監査(財務について会計監査が適正におこなわれているか) ④財務情報の公開(私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか)
(9)法令等の遵守	①法関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか) ②個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか) ③学校評価(自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか ④改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか) ⑤教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)
(10)社会貢献・地域貢献	①社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか) ②ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)
(11)国際交流	①留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価より、「資格取得率」「地域貢献」「教員・学生のモチベーション維持・向上」「学生募集」等に関する意見が寄せられた。

この意見を踏まえ、その改善を図るべく、取り組みの重要度・優先度を設定した後プロジェクトチーム化を図り、業界や地域のニーズ分析や、他専門学校動向調査(特色、教育課程の実態、教育実績、部活動実績、その他)等に取り組むこととした。社会に求められる即戦力人材の育成がより加速するよう、より良い学校運営の在り方を模索していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年10月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
金子 知	社会医療法人朋仁会　整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長　リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会 事務局次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))

URL:　https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/

公表時期:　令和7年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
（2）各学科等の教育	・定員数、在学生数 ・カリキュラム（授業概要、授業時数等） ・進級・卒業要件等（成績評価基準、進級・卒業の認定基準等） ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業者数、卒業後の進路（主な就職先、就職者数、就職率等）
（3）教職員	・教員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・部活動の活動状況および実績 ・施設・設備等の教育環境
（6）学生の生活支援	・学生・生活指導への取り組み状況 ・カウンセリングの体制整備等に関する状況
（7）学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い（学費・納入時期等） ・活用できる修学支援の内容（奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等）
（8）学校の財務	・事業報告書 ・収支計算書 ・貸借対照表 ・監査報告書
（9）学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策等
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL：　https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/

公表時期：　令和7年10月31日

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　パーソナルトレーナーコース）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方（言語的指導・視覚的指導など）の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	1・後	30	2	○		△	○	○		○	○
9	○			パーソナルトレーナー概論	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	1・前	30	1	○			○		○	○	
10	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		

12	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
13	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			健康運動実践 指導者対策理論	検定試験（健康運動実践指導者：筆記試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
15	○			各種トレーニング法の 理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		
16	○			検定対策Ⅰ	トレーニング指導者として相応しい知識や技術を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
17	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
18	○			検定対策Ⅲ	JATI認定トレーニング指導者合格に向け、知識の習得と試験問題への対応力を身につける。	2・通	60	4	○			○		○		
19	○			検定対策Ⅳ	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。	2・通	60	4	○			○		○		
20			○	ジュニアスポーツ 指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
21			○	ジュニアスポーツ 指導の実際	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。 子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。	2・後	30	2	○			○		○		
22			○	スポーツ プログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
23			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験（公認水泳コーチ1：理論試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
24			○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
25			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
26			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○		○		
27	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
28	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
29	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		

30			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
31	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
32	○			スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	2・前	30	1			○	○			○	○
33	○			ボディメイク	実際にトレーニングを実施し、目的や効果、フォームなどを身につけ、現場や自分のトレーニングに活かせる技術を習得する。	2・前	30	1			○	○			○	○
34	○			フィジカルトレーニング	自身のフィジカル能力向上及びスポーツ動作に活かせるトレーニングの実践を行う。	2・通	60	2			○	○			○	○
35	○			フィジカルコンディショニング	コンディショニングの要素である身体的因子に焦点化し、パフォーマンスの向上と傷害予防のために、いかにしてコンディショニングを把握し管理するかについて学ぶ。	2・通	60	2			○	○			○	○
36	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
37	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
38			○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験（公認水泳コーチ1：実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
39			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○		○		
40			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○		
41	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
42	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
43	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○		
44	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	○			○		○		○

45	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・前	30	2	○			○		○		
46	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
47	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
48	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○	
49			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
50	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
51	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
52	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
53	○			パーソナルトレーナー実習Ⅰ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○		○	○	○
54	○			パーソナルトレーナー実習Ⅱ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	2・通	60	2	△		○	○		○	○	○
55			○	ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
56			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
57			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
58			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
59			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
60			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		

61			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
62			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
63			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
合計					63 科目			2,730 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツインストラクターコース）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方（言語的指導・視覚的指導など）の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	1・後	30	2	○		△	○	○		○	○
9	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		

12	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
13	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			ジュニアスポーツ指導の実際	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。	2・後	30	2	○			○		○		
15	○			健康運動実践指導者対策理論	検定試験（健康運動実践指導者：筆記試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
16	○			各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		
17	○			検定対策Ⅰ	健康運動指導士について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○	△		○		○		
18	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・通	60	4	○	△		○		○		
19	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。健康運動指導士についての理解を深める。	2・通	60	4	○	△		○		○		
20	○			検定対策Ⅳ	健康運動指導士、健康運動実践指導者合格に必要な知識を習得する。	2・通	60	4	○	△		○		○		
21	○			ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
22	○			プログラム研究と開発	一般向けスタジオプログラムの企画から実践までを行う。	2・通	60	4	○		△	○			○	
23			○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
24			○	JATI トレーニング指導者対策	検定試験（トレーニング指導者）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	
25			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験（公認水泳コーチ1：理論試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
26			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
27			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○		○		
28	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
29	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	

30	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
31			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
32	○			健康運動実践 指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
33	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
34	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
35			○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験（公認水泳コーチ1：実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
36			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○		○		
37			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
38	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
39	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
40	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○		
41	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	○			○		○		○
42	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・後	30	2	○			○		○		
43	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
44	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
45	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○	

46			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
47	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
48	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
49	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
50	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
51			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
52			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
53			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
54			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
55			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
56			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
57			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
59		○		フィットネストレーナー実習Ⅰ	フィットネス業界の歩みを知り、実例をみながらスポーツクラブ運営の基礎を学ぶ。経営戦略への興味関心を高め、基礎知識を習得する。	1・集	60	2	△		○	○	○	○	○	○
60				フィットネストレーナー実習Ⅱ	フィットネス業界の歩みを知り、実例をみながらスポーツクラブ運営の基礎を学ぶ。経営戦略への興味関心を高め、基礎知識を習得する。	2・集	60	2	△		○	○	○	○	○	○
61		○		こどもスポーツ実習Ⅰ	子どもの身体的特徴や発育発達段階を理解する。また、レッスンにおける指導を通じて運動指導の実践力を身につける。	1・集	60	2			○	○		○		
62				こどもスポーツ実習Ⅱ	子どもの発育発達及び習熟段階を考慮した指導計画を立案し、効果的な運動指導を実践する。	2・集	60	2			○	○		○		○

63		○		ダンスパフォーマンスⅠ	ダンスインストラクターとしての知識とダンススキルを身につけ、ダンスショーのプログラム（選曲・振付・発表）・ダンスエクササイズと基礎指導ができる。	1・通	60	2			○	○			○	○
64				ダンスパフォーマンスⅡ	ダンスインストラクターとしての知識と技術を向上し、ダンスショーのプログラム・ダンスイベント運営スタッフ・ダンスレッスン指導を可能にする。	2・通	60	2			○	○			○	○
合計					64　科目			2,850 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツコーチングコース）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方（言語的指導・視覚的指導など）の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	1・後	30	2	○		△	○	○		○	○
9	○			コーチングの仕方	コーチングの理論と方法を学び、実際の指導現場での状況変化に対応できるようになる。	1・後	30	2	○		△	○		○		
10		○		コーチ・審判ライセンス特別講習	各種目のルール、特徴・特性を理解し、実践へと繋げることを目的とする。	1・2・後	30	1	△		○		○	○		○
11	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		

12	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
13	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○			ジュニアスポーツ指導の実際	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。 子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。	2・後	30	2	○			○		○		
17	○			健康運動実践 指導者対策理論	検定試験（健康運動実践指導者：筆記試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
18	○			各種トレーニング法の 理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		
19	○			検定対策Ⅰ	健康運動指導士について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
20	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
21	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。健康運動指導士についての理解を深める。	2・通	60	4	○			○		○		
22	○			検定対策Ⅳ	健康運動指導士、健康運動実践指導者合格に必要な知識を習得する。	2・通	60	4	○			○		○		
23	○			ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
24			○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
25			○	JATI トレーニング指導者対策	検定試験（トレーニング指導者）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	
26			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験（公認水泳コーチ1：理論試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
27			○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○

28			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○		○		
29	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
30	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
31	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
32			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
33	○			健康運動実践 指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
34	○			コーチングの実際	指導者を志す立場として、人を育てるという心理学を基本に、コーチングの理論と仕方、より良い方向性を学ぶ。	2・前	30	1	○		△	○		○		
35	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○		
36	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
37			○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験（公認水泳コーチ1：実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
38			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○		○		
39			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○		
40	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
41	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
42	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○		
43	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1	○			○		○		○

44	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・前	30	2	○			○		○		
45	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
46	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
47	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○	
48			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
49	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
50	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
51	○			インターンシップ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	○
52	○			コーチング実習Ⅰ	スポーツ指導者としての心得や、各競技の概念を学び活かすことを目的とする。	1・集	60	2	△		○	○	○	○	○	
53	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事でスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
54	○			コーチング実習Ⅱ	スポーツ指導者として、現場で即戦力として活躍できる心構えや、指導スキル、対応力を身につけることを目的とする。	2・集	60	2	△		○	○	○	○	○	
55			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
56			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
57			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
58			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
59			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
60			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		

61			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
62			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
合計					62 科目			2,640 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

	（専門課程　スポーツ健康学科　スポーツビジネスコース）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツビジネス論Ⅰ	現代社会におけるスポーツの発展とビジネスとしての側面を学び、スポーツに求められる社会的な役割・機能を考える。スポーツビジネスの現場で必要になる知識と能力を高め、述べることが出来るようになる。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○			スポーツビジネス論Ⅱ	現代社会におけるスポーツの発展とビジネスとしての側面を学び、スポーツに求められる社会的な役割・機能を考える。スポーツビジネスの現場で必要になる知識と能力を高め、述べることが出来るようになる。	1・後	30	2	○			○			○	
3	○			スポーツトレンドリサーチⅠ	現在のスポーツ業界におけるトレンドに触れ、深堀していくことで業界理解を深める。また、今後のスポーツビジネスについて自らの考えを持てるようにする。	1・前	30	2	○			○		○		
4	○			スポーツトレンドリサーチⅡ	現在のスポーツ業界におけるトレンドに触れ、深堀していくことで業界理解を深める。また、今後のスポーツビジネスについて自らの考えを持てるようにする。	1・後	30	2	○			○		○		
5	○			イベント企画と立案	イベント企画に対しての基礎知識を学び、発案・考案しイベント企画を構築する。	1・後	30	2			○	○	○	○	○	○
6	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			運動生理学	人体の構造と機能（生理学）と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
9	○			プレゼンテーション論	PowerPointの基本操作およびプレゼンテーションを行うための知識と技能を習得する。	2・前	30	2	△		○	○			○	
10	○			スポーツツーリズム研究	スポーツツーリズムの歴史や概念について学び、身近な事例からその成果や課題等について議論、検討できることを目的とする。	2・前	30	2	○			○		○	○	
11	○			スポーツマーケティング論	スポーツマーケティングの基本的な考え方を身につけ、代表的な事例に触れながらその意義について理解するこを目的とする。	2・前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツ産業学	スポーツの発展は、社会的・経済的発展と相互関係にあることを理解したうえで、広い知見を深める。21世紀におけるスポーツの創造に向けて自ら考察できるようになる。	2・後	30	2	○			○			○	
13	○			スポーツメディア論	スポーツ報道における各メディアの歴史や特性及びそれぞれの関係性について学び、スポーツとメディアの関係について検討し理解を深める。	2・後	30	2	○			○			○	

14	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
18	○			健康運動実践 指導者対策理論	検定試験（健康運動実践指導者：筆記試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
19	○			検定対策Ⅰ	健康運動指導士について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
20	○			検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・通	60	4	○			○		○		
21	○			検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。健康運動指導士についての理解を深める。	2・通	60	4	○			○		○		
22	○			検定対策Ⅳ	健康運動指導士、健康運動実践指導者合格に必要な知識を習得する。	2・通	60	4	○			○		○		
23			○	FCM対策	検定試験（フィットネスマネジメント検定2/3級）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
24			○	ジュニアスポーツ 指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。 各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
25			○	ジュニアスポーツ 指導の実際	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。 子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。	2・後	30	2	○			○		○		
26			○	ジュニアスポーツ指導員 対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
27			○	スポーツプログラマー 対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
28			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験（公認水泳コーチ1：理論試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
29			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1指導員検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○		○		
30	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
31	○			ベーシック エアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	

32	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
33			○	アウトドア実習Ⅰ	アウトドアについての基本的な知識・技術を身につける、体験活動やグループワークを通して実際に体感し、自身や他者とのコミュニケーションスキルを身につけることを目的にする。	1・集	30	1			○		○	○		○
34			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
35	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
36	○			イベント集客	イベントの成功に欠かせない集客に関する考え方や手法を学び、実際のイベントにおける集客方法を考え実践する。	2・前	30	1			○	○		○		
37	○			ブランディング	ブランドの概念とブランディングステップについて学び、各グループごとにブランド化する対象を選定し、SNS活用を中心としたブランディング戦略の構築とその実践をする。	2・前	60	2			○	○		○		
38			○	アウトドア実習Ⅱ	アウトドアについての基本的な知識・技術を身につける、体験活動やグループワークを通して実際に体感し、自身や他者とのコミュニケーションスキルを身につけることを目的にする。	2・集	30	1			○	○		○		
39			○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験（公認水泳コーチ1：実技試験）合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
40			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○		○		
41			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネージメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○		
42	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
43	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
44	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○		
45	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1			○	○		○		
46	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	1・後	30	2	○			○		○		
47	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		

48	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
49	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○	
50	○			外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べることが出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
51	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
52	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
53	○			インターンシップⅠ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	60	4	△		○	○	○	○	○	○
54	○			イベント企画・運営実習Ⅰ	スポーツ大会(屋内・屋外)、スポーツフェスティバルの企画・運営する	1・集	60	4	△		○	○	○	○	○	
55	○			インターンシップⅡ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	2・集	60	4	△		○	○	○	○	○	○
56	○			イベント企画・運営実習Ⅱ	スポーツ大会(屋内・屋外)、スポーツフェスティバルの企画・運営する	2・集	60	4	△		○	○	○	○	○	
57			○	ジュニアスポーツ 指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事でスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
58			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
59			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
60			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
61			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
62			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
63			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
64			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		

65			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
合計					65　科目			2,700 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	１学期の授業期間	17 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。